家庭に於げる諸儀式（承前）

後閑菊野

其三　成年祝

これは男子が成年に達したのを祝ふ式でございます成年とは滿二十年に達したとき即ち徴兵適齢を指していふのでございます昔は男子には元服の祝といひ女子には鬢そぎの祝と申しまして何れも成人を表する意で行つた式でございます

元服を行ふ年齢は身分と場合とによつて一定しては居りませんが大概十歳以上二十歳までに於て行はれたものでございます稀には五六歳で行つたものもございました元服を行ふまでは童子として扱はれ其の名なども何若何千代など稱へ元服の後始めて實名を名乘ることになつて居りました即ち源義經の幼名は牛若で德川家光の幼名が竹千代でわつたやうな類であります官位は元服を行つた後でなくては拜命することが出來ませぬから高貴の人は種々の都合上早く此の式を行ふのもまゝわつたのでございます

元服の時には加冠の役理髮の役といふことがございまして加冠とは烏帽子をとつてかぶせる人即ち烏帽子親の事をいひ髮の先を紙に包んで之を切る人を理髮といふのでございますそこで理髮の人が髮を切りますと次に加冠の人が烏帽子をとつてかぶせるのでございまして此の時加冠の人から名乘字を一つ遣はすことなどもございます即ち東照宮御實配に次の如く配されて居ります

竹千代君德川家康御年十五にて今川治部大輔義元の許におはしまし御首服を加へ給ふ義元加冠を仕うまつる關口刑部少輔親永理髮し奉る義元一字を參らせ治部三郎元信と改め給ふ時に弘治二年正月十五日なり

さて祝宴の時は加冠の人より冠者に盃を賜はり名乘字を書いた折紙に太刀又は馬などをそへて贈り物とし冠者よりも加冠の人に盃を進め贈り物を

いたします理髪の人からも盃を賜はり贈り物があります冠者よりも同様にいたします冠者の父からも加冠理髪の人に贈り物をする例がでございます

さて現今に於ては元服を行ふ必要なく從て是等の或は不用でございますけれども成年に達したのを祝ふのは一は本人をして責任の輕からざるを知つて自重の心を起させ一は父母が其の子の徴兵適令にも達して國家の爲に盡し得るに至つたのを歡ぶ意を表はす所以でありまして至當の事とぞんじます今例によつてその式に關する大體の私考を述ませう。

當日本人は朝早く起きて手洗ひ口漱ぎ髪を梳り新調の衣服を着し先づ神前を拜し次に祖先の靈を拜するがよろしうございます此の時父母は定めおいた座敷の上席に着座いたします本人は下座からはいり父母に向つて座します此の時本人の弟妹又は然るべき召使がの者が熨斗三方を持ち出でまして父母と本人との中央におきますのを待つて相方互に會釋をいたします此の時父母より將來の心得方を敎訓するがよろしうございますそれが終りましたらば銚子と三つ盃とを持て出で先づ父の前に置きます父が三度飲んで母にさします母も三度飲んで子にさします子も亦三度飲みまして此の盃はこれでをさめますそこで酌人は中座に歸りまして次の盃を上にして持ち出でます此の度は先づ子に進めます子が三度飲んで父にさします父が三度飲んで母にさします母が三度飲んで之を納めます酌人はまた中座に歸り下の盃を上にして持ち出でまして母に進めます母三度飲んで子にさします子が三度飲んで父に進めます此の時父母から引出物を賜はります子ば座を避けて之を推し戴き上座に置きます是れで祝の儀式を終りましたのでそれからは家族親戚一同列席いたしまして宴會を催したらよいでございませう當日の座敷飾には成るべくは忠君、愛國、武勇、立志、正義、廉潔、宏量、忍耐等

の意を偶したる裝飾品を用ゐるが適當でございませう試に一例を擧げて見ませう

床飾　右床巾一間

掛物　源義家名古曾の關に櫻花を賞する圖

花　竹に白椿紫檀の臺に載す

買物　龍、波間に珠を弄ぶ形

棚飾　違棚巾一間

上の棚　書籍

下の棚　食籠

押板　熨斗三方

附書院　硯箱及び短冊箱

其四　天長節

天長節は　今上天皇の御誕辰を祝し奉る佳節でございますから萬民の共に慶賀し奉るべき日でございますそれゆゑに職を官廳學校等に奉ずるものは各定めの時刻には宮中或は其の官省學校などに出まして奉祝の意を表するのでございますが各家に於ても其の家々の都合によつて時刻を定め祝式を行ふやうにいたしたらよろしからうとぞんじます即ち

先づ天照大神の神扉を開き神酒洗米等を供し表座敷には兩陛下の御寫眞を奉掲して家族一同衣服を改めて順次に拜禮し寶算の無窮を祝し奉るべきでございます式後は別席に於て宴を開いて奉祝の意を表するがよいでございませう場合により親戚知人などを招いて共に祝しましたならば一層よろしいでございませう祝宴餘興としては音樂などの催しがよろしうございますその外詩歌書畫盆畫盆石なども亦妙でございませう座敷飾は總て　陛下の御德を顯し且つ寶算の無窮を祝し奉る意を以てすることが出來ましたならば最もよろしいのでございます次に二三の例を擧げて見ませう

床飾

第一例

掛物　富士の圖

花　菊

置物　仙人

第二例

掛物　重陽の圖

花　萬年青

置物　籠香壇（銀製或は青磁）

棚飾は勅語を寫したる卷物を軸盆に載せて上の棚に置くなど最も適當でございませう其の他は普通の場合に於ける裝飾品と同じものでも差支はございません

第三例

これは西洋風の室飾として一例を擧げたのでございます

客室

紫檀製大棚

幅一間高さ一間違棚もあり通し棚もあり並に駒子形扉附一箇所引戸附一箇所ありて丶に精巧なる美術品を形容色彩に從て適當に配置するものとす

次に其の品目を掲ぐ

古代唐草高蒔繪手文庫

梨子地櫻の散し模樣ある硯箱

堆朱軸盆に卷物一卷を載す

堆青香合丸形のもの

古銅水盤形花器に白菊を挿す

牙彫牧童

有田燒錦手菓子器

古代能の面（翁）に中啓を添ふ

充分裝飾を施せる置時計

盛花

三角棚　下袋戸棚は四段

袋戸の上　繪端書帖

三の棚　瑪瑙鷄雌雄

二の棚　蒔繪二重卷烟草入

一の棚　寫眞立て

花　室の一隅に卓を置き之に花を飾る

古松に菊數種を豐に盛る　花瓶銅器

額
油繪、刺繍、天鵞絨、友禪等の額

屏風
金屏風一雙　極彩色重陽の圖

卓
紫檀にて達り金襴、純子等の精巧なる織物若くは刺繍を施したる卓掛を用ゐる

椅子
長椅子、肱掛椅子、普通椅子
右は何れも相當に裝飾あるものにして蒲團は總て精巧なる織物とす

小卓
處々に配置して茶菓子を進むる用に供す

食堂

食卓
大食卓を中央に置く白き卓掛を以て覆ひ活花五個を配置す

煖爐
英國風のカミーンとし上部に裝飾を施す正面棚上に油繪の大額を掲け其の前に時計を置き左右に鶴龜の置物を飾る兩端に花瓶一對右に菊花に梅もどきを挿す

置物
室の一隅に竹の大鉢を置き又一隅に神女の像を置く

額
煖爐の左右及び他の三方の壁に油繪、日本畫、彫刻、刺繍、天鵞絨等大小種々の額を掲ぐ